



無作為オンラインパネル『PbOPSS-23』のご登録者の皆様へ アンケートの確定結果のご紹介（結果報告第4弾）

PbOPSS-23

無作為オンラインパネル

2024年3月

拝啓 桜の開花の知らせも届いて、春を実感する毎日ですが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。

みなさまに「無作為オンラインパネル PbOPSS-23」にご登録いただいてから、1年が過ぎました。昨年6月にPbOPSS-23 通信 第1号をお送りし、「アフターコロナ世界における日本人の政治選択と生活意識アンケート」の速報結果をお伝えいたしました。そして、その後も第2号、第3号と分析結果をご紹介して参りました。今回お送りする第4号でも、これまでとはまた異なった視点から、分析結果をご紹介いたしますので、ご笑覧いただければ幸いです。

2月には**第2回目のアンケート調査**をお願いいたしました。お忙しいなか、ご協力いただき誠にありがとうございました。今後も、4～5ヶ月に一度くらい、PbOPSS-23 通信をお送りする予定ですが、来年度は、第2回目アンケート調査の結果についても、お知らせして参ります。本調査研究は2026年度(2027年3月)まで続く予定です。長期に渡りますが、よろしくをお願いいたします。

末筆となりましたが、令和6年能登半島地震で被災された方々に心からお見舞い申しあげるとともに、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。 敬具

皆様の個人情報につきましては、プライバシーマークを取得している専門調査会社のサーベイリサーチセンターのみが登録者名簿を厳重に管理し、わたくしども研究者は皆様のご住所、お名前、メールアドレスは所持しておりません。この通信も、わたくしども研究者が作成したあと調査会社に送付を委託してお届けします。ですので、住所やメールアドレスなどご連絡先の変更は、下記のサーベイリサーチセンターの受付窓口にご連絡下さい。

ご連絡先変更などの受付窓口

株式会社サーベイリサーチセンター 調査事務局 <https://www.surece.co.jp/>
〒103-0027 東京都中央区日本橋3-13-5 KDX 日本橋313ビル6F 担当:土屋・阿部・西浦・生島
フリーダイヤル 0120-366-354 (平日9時～18時・土日祝祭日を除く)
メールアドレス ochakenkyu@surece.co.jp

研究プロジェクト

研究代表者: 杉野 勇(お茶の水女子大学)
研究分担者: 尾嶋 史章(同志社大学), 歸山 亜紀(群馬県立女子大学),
小林 大祐(金沢大学), 轟 亮(金沢大学), 平沢 和司(北海道大学)

研究プロジェクトのウェブページでは、結果の報告など随時情報を更新しています。
URL:<https://www.li.ocha.ac.jp/ug/hss/socio/sugino/PbOPSS23/>



調査結果 PbOPSS-23 の第1回調査、「アフターコロナ世界における日本人の政治選択と生活意識アンケート」は、層化二段無作為抽出という科学的方法でお選びした全国4,800人の方にお願ひし、1,168人の方からご回答いただきました。PbOPSS-23 パネルに1,004人の方に登録いただきました(ウェブ回答希望は909人、紙回答希望は95人でした)。初回調査にのみ回答して下さったのは164人でした。点検の結果、今回の集計データとして、ウェブ回答1005、郵送回答158、合わせて1163票を確定データといたしました。

2024年3月20日

【みなさまのお住まいの地域に着目すると…】

約1年前のPbOPSS-23の第1回調査、「アフターコロナ世界における日本人の政治選択と生活意識アンケート」では日本全国の方々に回答をいただきましたが、皆さんのお住まいの地域によって、調査への回答の傾向に違いは見られるでしょうか。狭い日本の中で、そんな回答傾向に差が出るわけないとお考えの人もいるかもしれませんが、意外にそうでもありませんので、少し紹介をしたいと思います。

まず内閣支持についてみていきましょう。最近の世論調査では軒並み支持率を落としている岸田内閣ですが、第1回調査を行った2023年2月から3月の時点では、問4「あなたは岸田文雄内閣を支持しますか、それとも支持しませんか」という問いに、36.2%が「支持する」と回答しています。NHKの世論調査における内閣支持率では、2023年2月が36%、3月が41%となっています(出典:『NHK選挙WEB』)。調査の方法などが異なるため単純な比較はできませんが、本調査から得られた値は、世論調査の結果から大きく乖離していないと考えられるでしょう。では、地域間に支持率の差は見られるでしょうか。日本を6つのブロックに分割して支持傾向を比較したのが下の図です。地域間で支持する割合にばらつきがあることが分かります。興味深いのは、支持する割合がもっとも高いのが「中国・四国」地方だということです。「中国・四国」地方での支持率は47.2%で、2番目の「中部」よりも約6ポイント高いのです。これは岸田首相が広島(広島1区)選出の議員だということが影響しているのではないかと考えられます。やはり地元からでた総理大臣を応援したいという気持ちがあるのでしょう。

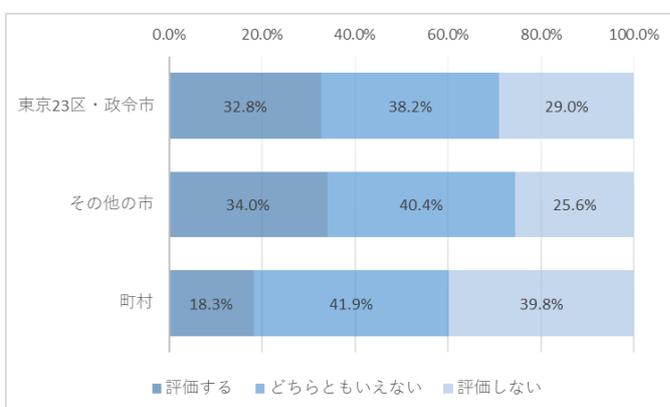
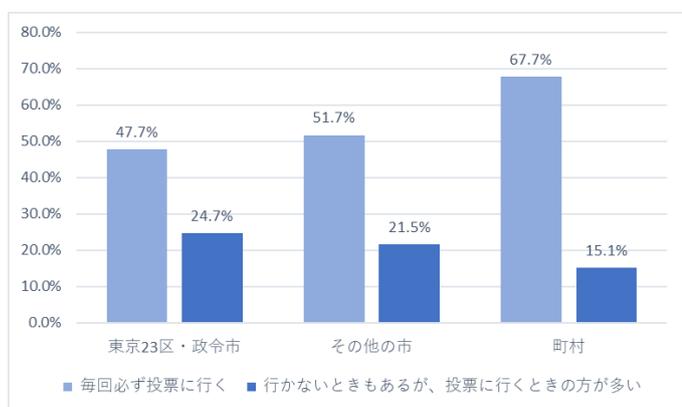


【都市度の違いで、意識も異なる】

続いて、地域の持っている特性、そのなかでも都市的な地域かどうか注目しました。都市的な地域に住んでいる人とそうではない人とでは政治参加の程度や政治への意識はどう異なるのでしょうか。この点について、居住している自治体を「東京23区・政令市」、「その他の市」、「町村」に分類して、投票頻度を聞きました(問3「あなたは国政選挙や自治体選挙の際に、どの程度投票していますか。もっとも近いものをお選びください。」)。「毎回必ず投票に行く」と「行かないときもあるが、投票に行くときの方が多い」と回答した割合を比較したのが次のページ中段に2つ横並びになっている図の左側になります。「毎回必ず投票に行く」と答えた割合は、「東京23区・政令市」では47.7%、「その他の市」で51.7%、「町村」で67.7%と都市的な地域になるほど、高頻度で投票する人の割合が低いことが分かります。「行かないときもあるが、投票に行くときの方が多い」という回答は、逆に都市的な地域ほど割合が高くなっていますが、これらを合計した割合で比較しても、「町村」でより投票しているという傾向は変わりません。また、図は省略していますが、支持政党についての質問に対して「支持政党なし」

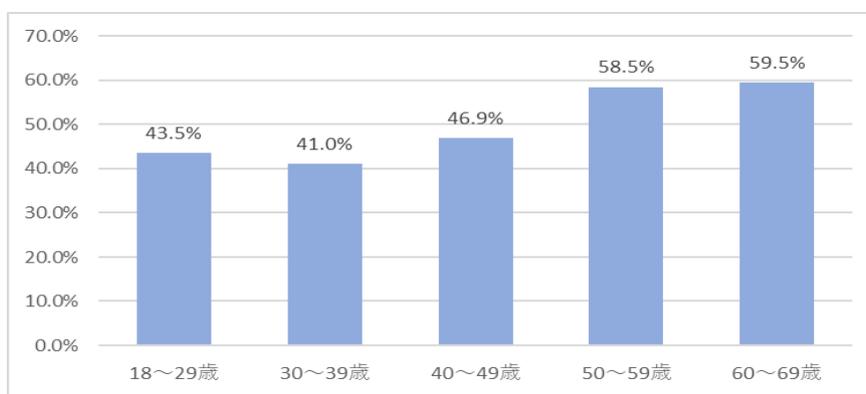
と回答した層だけでみても、「町村」で投票頻度が高い傾向は変わりません。支持政党の有無に関わらず、あまり都市的ではない地域では、選挙への投票がより重要なものとなっているように見えます。

次に「アベノミクス」への評価についても比較しました(問 11「あなたは総合的にみて「アベノミクス」を肯定的に評価しますか、それとも否定的に評価しますか)。その結果が2つ横並びになっている図の右側になります。「評価する」(「肯定的に評価している」+「どちらかといえば肯定的に評価している」)の割合は「東京 23 区・政令市」では 32.8%、「その他の市」で 34.0%なのに対し、「町村」で 18.3%にとどまっています。そして、逆に「評価しない」(「どちらかといえば否定的に評価している」+「否定的に評価している」)の割合は「東京 23 区・政令市」では 29.0%、「その他の市」で 25.6%なのに対し、「町村」で 39.8%と顕著に高く、都市的な地域と比較してあまり都市的ではない地域においては、「アベノミクス」の評価はより厳しいものになっていることが分かります。「アベノミクス」のひとつの柱に「地方創生」がありました。あまり都市的ではない地域に居住する人びとにとっては「アベノミクス」による恩恵は限定的だったのかもしれませんが。「アベノミクス」の評価は今でも分かれるようですが、その一端がここに現れているのかもしれません。



〔若者の政治離れ〕

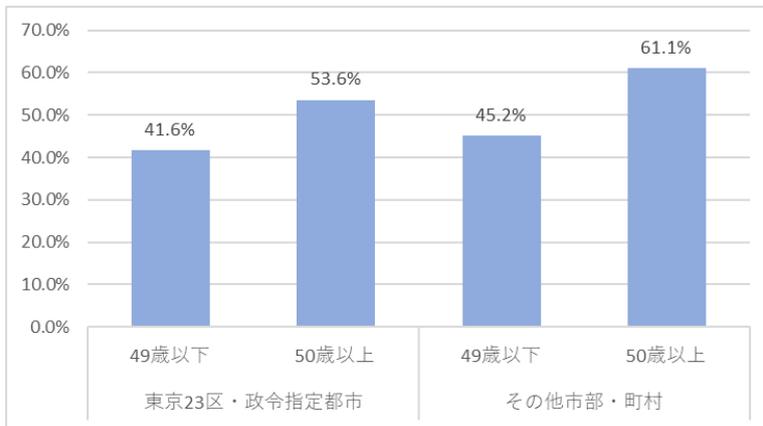
よくマスコミなどで取り上げられる話題に、若者の政治離れがあります。投票行動はその典型的なもので、まずこのことを確かめてみましょう。今回調査の対象になったのは 18 歳から 69 歳までの方なので、それをほぼ 10 歳きざみに 5 つのグループに分けて、先と同じ「毎回必ず投票に行く」という人の割合を示しています。



このグラフを見ると、30 代以下で「毎回必ず投票に行く」という人は 4 割程度、40 代でも 5 割に達しません。それに対して 50 代以上では、「毎回必ず投票に行く」という人が 6 割程度見られ、明らかに投票行動に年齢に

2024年3月20日

よる違いがみられます。都市部の投票行動の不活発さは、若者が多いために生じているのかもしれませんが。この回答を都市規模と年齢層をそれぞれ2つのグループに分けて集計してみました。こうすると確かに若年層よりも高年齢層で「毎回必ず投票へ行く」という人が多いのですが、同じ年齢層同士を比べてみると、49歳以下では41.6%対45.2%で4ポイント弱、50歳以上だと53.6%対61.1%で7ポイント以上、大都市部より高くなっています。このように、年齢は投票行動に関わっていますが、それと同時に地域の都市度も投票行動に関わっているのです。



年齢は、最初にみた岸田内閣支持にも関わっています。最後のグラフは、地域ブロック別に年齢層を2つに分けて岸田内閣の支持率をみたものです。中部を除く地域ブロックで50歳以上の支持率の方が49歳以下よりも高くなっていることがわかります。つまり、地域ブロックだけでなく、年齢も岸田内閣の支持に強く関わっているのです。しかし、こうした年齢層による支持率の違いはあるものの、それでも中国・四国ブロックでの支持率は、どちらの年齢層でももっとも高くなっていることがわかります。岸田内閣は高年齢層に支持される傾向が強いと同時に、地域ブロックによって支持率が異なるのです。



今回は、地域と年齢に注目しましたが、人々の考え方は、これ以外にもさまざまな要因と関連しています。全国の多様な地域のすべての年齢層の人々に調査してはじめて、人々の意識や行動の全体像がみえてくるのです。